

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① アメリカの食品会社が1善意キャンペーンもかねて、自社製品の粉ミルクを、飢餓に悩むアフリカの子供たちに配ることを始めた。もちろんある程度の代金をとってはあがあるが、栄養状態が悪くて母乳の出ないお母さんにとっても※福音に違いない、また十分に栄養素も補強されているから、栄養も偏らないはずだ、という常識のなかで、このキャンペーンは進められた。多くの人がこの計画に賛同した。食品会社は、指導員を送り込んで、使い方を説明した。むろん、善意だけではなかつただろう。販路の大幅な拡張につながるという思惑もあったには違いないが、決してa非道な計画には見えなかつた。

② しかし2結果は無残だつた。原因はいくつかあつた。一つは、そうして外国から買った、あるいは贈られたものは貴重で、お母さんたちは、言いつけ通りにミルクを使わなかつた。少しずつ食い延ばそうとしたり、b甚だしいものは、※闇値をつけて横流しをした人も出た。

③ しかし、もつとも大きな原因は、水であつた。人工栄養のミルクは哺乳瓶で赤ちゃんに飲ませる。哺乳瓶や乳首は常に清潔にしておかねばならない。日本では、煮沸して消毒することが薦められたことさえあつた。しかし、それは豊富な水があつて、それが常時使えるという状況の中ではじめて可能になる事柄である。もし水が常時使えないとき、ミルクを飲んだ後の哺乳瓶や乳首はどうなるだろうか。こびりついたミルクは栄養豊富で細菌の絶好の繁殖場になる。その上に、次のミルクを入れて、赤ちゃんに飲ませたら、培養した細菌群を飲ませるようなものである。ただでさえ栄養が行き届かず、体力が弱っている赤ちゃんにとって害のない細菌でも、そうやって多量に飲まされれば胃腸障害を起す。

④ 事実、こうした理由が重なって、この食品会社のキャンペーンは無残な結果を引き起こしたのだつた。かえって栄養失調や、消化器系の感染症で死亡する幼児が激増したのである。それでは、ミルクを赤ちゃんに少しずつ与えることで食い延ばそうとしたお母さんが悪かつたのか、手に入ったミルクを闇に横流しにしたお母さんが悪かつたのか、水でしっかり哺乳瓶や乳首を洗わなかつたお母さんが悪かつたのか。

5 そうではない。狭い領域の中でつくりあげられた自分たちの常識だけから、粉ミルクによってアフリカの飢餓を救えると思っ
込んだアメリカの食品会社の側、あるいは、そのキャンペーンに賛同した人々の間に、推理と判断とが欠けていたがゆえの 悲劇で
あったという外はない。

6 ※レイチエル・カーソンが、いくつかの現象の観察や知識を組み合わせて、あり得べき未来の危険を推理し予測したように、
※シラードが、原子物理学という自分の専門分野から抜け出て、手に入る様々な観察結果や知識を統合して、核兵器の 未来を国
際関係に至るまで予測したように、この場に、いくつかの領域での基礎的な知識を持ち合わせ、総合的な推理と判断 のできる人間
がいたならば、この悲劇は救えたかもしれないのである。

7 これらの一見関係のなさそうな領域における知識や情報に十分な目配りが効き、
分けた上で組み合わせ、そこからあり得べき様々な可能性を導き出し、その導き出された結果を検討・評価して、未来につ
いてのしかるべき判断を下すことができる、このような能力が必要だったのでなかろうか。ノーベル賞が獲れるような、ある
狭い領域のなかで同僚の専門家だけを相手に論文を書いているような研究者のそれとは全く違う能力なのだ。

8 この粉ミルクの事件は、環境問題を考える際にもよい教訓となるだろう。目下のところ、環境問題の多くは、科学の専門家
たちが自分たちの極めて狭い分野にそれぞれとらわれ、その中で小さな発見を積み重ねるといふ状態の中で解決が試みられて
いる。
III、環境問題というものは、そのような狭い「※たこつば」のなかで処理できるような性格のものではないことは、容易に想像
できるのではないか。

9 仮に自然界における炭素の循環という現象を一つとらえたとしても、それは、化学の領域にあると同時に、海洋学や海洋動
物学、海洋植物学の※範疇にも属し、あるいは森林学や生態学、地質学や地形学、気象学や大気圏物理学など、現存する学問 領
域だけでも、非常に広範な領域をカバーする問題である。つまり、現在のような細分化された科学が、そのままの態勢で、環境問
題に立ち向かうことは、ことの本性上からも不可能と言わなければならないのである。この問題に取り組もうとする限

り、これら自然科学分野の専門家たちは、否でも心でも自分たちの「たこつば」を外に向かって開いて、閉鎖的な状況から抜け 出

さなければならぬという要求を突きつけられていることになる。

❶ しかし、ことは4それだけでは不十分だ。次のような事柄で考察してみよう。

❷ 大気圏中の二酸化炭素の量がここへきて急速に増加し始めているということが事実だとして、そのそもその原因は一体何なのであろうか。言うまでもなく、われわれ人間の活動、それも文明社会の拡大とともに、エネルギーと物質とを大量に消費する人間の社会生活、産業活動や経済活動あるいは軍事活動や輸送・移動活動などが、その原因の中心を占めていることは明

白であろう。もしそうだとすると、問題を見極め、将来の見通しを立てて行くための、考慮しなければならない必須の要件として、そのような人間の社会活動に目を向けざるを得ない。言い換えれば、こうした問題は、自然現象を研究するだけでは本質的に不十分であって、社会現象をも考慮の対象にしなければならぬことになる。

❸ ところが、これまでの自然科学も、あるいは※人文科学や※社会科学も、このような相互乗り入れの準備は全く出来ていない状況にあると言わなければならない。自然科学は、客観性を※標榜するあまり、それを乱し、あるいは汚すような、人間的な要素が入り込むことを極度に警戒し、人間を扱う場合でさえ、それを純粹に物質系としてのみとらえることを自らの義務としてきた。すなわち、自然科学は自然のみを相手にして、人間、とりわけ行為する主体者としての人間を、自らの扱うべき対象から慎重かつ徹底的に排除することによって、自らを成立させているのだ。このような学問観は、人文・社会科学にも反映されている。人文科学や社会科学も同じように、自らの対象から自然を除外し、自然科学の扱わない人間現象に限定することによって自分の存在を確認できるような形で成立した。

❹ 両者がこのように成立してから約百五十年が経過したが、その間に5こうした分離と分業の傾向はますます強化され今日に至っている。

❺ しかし、すでに見たように、6環境問題は、単に、自然科学の内部での学問領域の細分化を無意味にするばかりでなく、自然科学と人文・社会科学との間の犯し難い境界をも、実質上無意味にするような働きをもっているように思われる。あるいは少なくとも、そうした境界の壁を越えて、学問どうしが協力し合わなければ、到底問題の核心には迫れないように思われる。

【問】 環境問題に真なる解決があり得るのかどうか、定かではないが、環境問題の「解決」に必要とされている学問の性格は、まさしくそうしたものはなからうか。それがより遥かに大規模に多様な領域の知識を巻き込んでいるとしても、である。

(村上 陽一郎『科学者とは何か』より)

注 ※ 福音…うれしい知らせ

※ 闇値…合法ではない取り引きで商品につけられる値段

※ レイチェル・カーソン…約四十年前に環境問題を告発した生物学者

※ シラード…核戦争の脅威をうったえた物理学者

※ たこつぼ…タコをとらえるための漁具。一般に、狭い学問の世界のたとえとして使われる

※ 範疇…ものごとをいくつかのまとまりに分類したときの、それぞれのまとまり

※ 人文科学…文芸・言語・歴史などを研究する学問

※ 社会科学…政治・経済・社会などを研究する学問

※ 標榜…主義、主張などを公然と掲げ、表すこと

問一 線部 a 「非道な」、b 「甚だしい」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 突拍子もない

イ この上なく悲しい

ア ひどい

イ ずるい

a 「非道な」

ウ それほど専門的ではない

b 「甚だしい」

ウ 腹立たしい

エ 人としての行いから外れる

エ おもしろい

オ どうしても実現しそうにない

オ 思いやりがない

問二

I

Ⅲ

にあてはまる適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば

イ しかも

ウ しかし

エ あるいは

オ つまり

問三

次の一文は本文中から抜き出したものです。どの段落とどの段落の間に入りますか。段落番号で答えなさい。

その知識とは、そうした粉ミルクが送られる地方の生活の状況はどのようなものかという社会学的知識、貧しい状態に置かれたお母さんたちが、外国から目新しい高価そうなものを手に入れたらどのように感じ、どのように行動するかという心理学的知識、さらに、放置されたミルクは理想的な細菌の培養地になるといふ生物学の知識などである。

問四

線部1「善意キャンペーンもかねて」とありますが、ほかにどのような意図があったと考えられますか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問五

線部2「結果は無残だった」とありますが、どのような結果になったのですか。それを最も端的に述べた一文を本

文中から探し、最初の五字を抜き出しなさい。

問六 線部3について、「粉ミルクの事件」が「環境問題を考える際」の「よい教訓」と筆者が考えるのはなぜですか。

本文中から次の [] にあてはまる語句を十字以内で抜き出し、答えを完成させなさい。なお、二つの [] には同じ語句が入ります。

粉ミルクのキャンペーンは、それを計画した人々に [] が欠けていたために失敗したが、それと同じように、環境問題においても科学者たちに [] が欠けていては解決にたどりつくことは困難だから。

問七 線部4「それ」の指す内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 炭素の循環の研究が科学者の狭い「たこつぼ」の中で行われていること
- イ 自然科学分野の専門家たちが、閉鎖的な状況の打破を迫られていること
- ウ 現代の細分化された科学では環境問題に立ち向かうのは不可能であること

- エ 自然科学分野の専門家たちが閉鎖的な現状から抜け出すこと
- オ 環境問題が非常に広範な領域をカバーする問題であること

問八 線部5「こうした分離と分業の傾向」とありますが、自然科学と人文・社会科学はどのように「分離」・「分業」しているのですか。両者の違いが分かるように、七十字以内で説明しなさい。

問九 線部6について、次のⅠ、Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 「環境問題」が「自然科学の内部での学問領域の細分化を無意味にする」ということを具体例を用いて説明した段落の番号を答えなさい。

Ⅱ 「環境問題」が「自然科学と人文・社会科学との間の犯し難い境界をも、実質上無意味にするような働きをもっている」ということを具体例を用いて説明した段落の番号を答えなさい。

問十 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アフリカの飢餓を救うためには、粉ミルクを配るような善意よりも、自然科学や人文・社会科学の知識を活用する方が有効だと考えられる。

イ 粉ミルクのキャンペーンを計画した人々は、狭い常識にとらわれ、水の不足した地域では哺乳瓶を清潔に保てないということに思い至らなかった。

ウ　いくつかの現象の観察や知識を組み合わせ、未来の危険を推理し、予測することができていたならば、核兵器による悲劇は救えたはずである。

エ　環境問題を解決するためには、今こそ自然科学の分野において、ノーベル賞を獲ることができるような画期的な研究が求められる。

オ　われわれがエネルギーや物質を大量に消費する生活を改めれば、二酸化炭素の排出量は減少し、環境問題を解決できると思われる。

㉓　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たとえば洗濯カゴがふたつあったとして、と私はトラックを走りながら考えている。頭の中にいつものイメージが湧き出している。右のカゴには洗う前の、左のカゴには洗った後の洗濯物が入っている。アさて——息が苦しい。足が前に出ない。イヤけに目にしみるのは、汗か、それとも涙なのか。聞こえてくるのは、冬空の下に力強く響いてくる歌声と、自分の激しい呼吸だけだ。

間違えて、清潔なシャツを右のカゴに入れてしまったら。間違えた場所に入れられたシャツは、そこで肩身を狭くして、カゴから出される日をじっと待つかない。そう思っていた。

今、私は汗だくでよれよれのただのシャツだ。洗って干されて太陽の匂いのするシャツたちの中に、混じることができるだろうか。グラウンドの片隅でウのびのびと歌う彼女たちと溶けあうことはできるだろうか。

* * *

秋の体育祭と文化祭が終わると、急に空が高くなる。空気の匂いが変わる。香ばしさが風にかすかに混じり、住宅地の中を抜けて行くだけなのに、みのりの季節が近づいているのがわかる。ようやくおだやかな日々が戻ってくる。体育祭や文化祭の賑々しさが私は苦手だ。今さら走ったり、踊ったり、新鮮味のない模擬店を出したり、そういうことをさせられるのが億劫でならない。終わってほっとした。退屈な日常でも、喧騒よりはいい。

それなのに、まだ。ホームルームの最後に、エそろそろ合唱コンクールの準備を、と佐々木さんが言ったのだった。何がそろそろだ。文化祭が終わったばかりじゃないか。ひとつ終えるとまたひとつ、秋は行事のペースが速くなるらしい。

翌週の1ホームルームで議題が合唱コンクールのことになったときも、私は窓から外を眺めていた。中庭の樺が色づいている。「誰か、指揮をやりたい人、やってもいい人、いませんか」

議長は佐々木さんが壇上から呼びかけている。指揮なんかやりたい人がいるわけがない。どうせオまた決まらなくてジャンケンかクジになるんだろう。

頬杖をついて、高い空に飛行機雲が伸びていくのを見上げたとき、

「御木元さんがいるでしょ」

という声があった。驚いて声のほうを見たけれど、誰だかわからなかった。

「そうだ、御木元さんがいるじゃん」

「御木元さんがやればいい」

教室のあちこちから声上がる。みんな、知っていたのだ。私が名のあるヴァイオリニストの娘だということを。そしてきつと、音大の附属高校に落ちてここにいることも。

さざ波のように広がった声はとても には感じられなかった。母親が音楽家なのだから娘もそれなりに何かできるはずだと、ただそれだけの理由で自分たちの厄介ごとを押しつけようとしているように聞こえた。

「御木元さんがやってくれたらいいと私も思います」

立ち上がってそう言った人がいた。声が素直で救われた。

議長が私を見た。

「お願いできますか」

「何を」

聞き返すと、発言者はもう一度立ち上がり、恥ずかしそうにちよつと振り返って私を見た。

「指揮か、ピアノ。それか、指導だけでもいい」

「どうして私が」

すると彼女はほんの少しためらった後で口を開いた。

「御木元さんは音楽が好きそうだから」

虚を突かれて返事ができなかった。

「お願いできますか」

もう一度議長に聞かれて、うなずいていた。音楽が得意そうだから、と言われていたら断っていたかもしれない。でも、音楽が好きそうだからというそのあまりに素朴な声に少し気持ちがほどけた。

「じゃあ指揮を」

私が答えると、黒板に、指揮・御木元^{りん}、と書かれた。

練習の初日、放課後の教室に残ったのは私を含めて五人だけだった。そのときに、ぱりんと割れたのだ。私がひそかに抱いていた期待も、望みも。砕けて跡形もない。考えられる限り減らした最低限の練習でも、同級生たちには負担だったらしい。負担

どころか、どうでもいいことに過ぎなかったのだろう。

初日の集まり具合を見ればすでにわかっていただけ、その予想を超えて練習は拂はからなかつた。いくら注意をしても三々五々集まっておしゃべりをしている。そのくせ歌う段になると声が出ない。原さんのピアノはうまいとはいえず、リズムがめちやくちやだった。指揮棒を見るように言うと、今度はすぐにつまずいてしまう。弾まないピアノがまた間違え、つられて合唱がふらふらと下降し、私はつい大きな声を出した。

「ここは何度も注意してるところだよ、勢いをつけてわっと声を出さない」と
「こんな言葉を切り、息を継いだ。」

「この際だから言わせてもらおうけど」
普段あまり練習に出てこない中溝さんが、私のほうを見ずに言った。

「こんな練習楽しくないよ」
やめようか、と思った。やめてもよかつた。みんな汚れたシャツだと思った。だからわからないのだ。ほんとうは合唱が楽しいことも、私の言葉も、きっと永遠に通じないだろう。

まとまらないまま合唱コンクールに出たが、もちろん賞には入らず、舞台を降りて体育館の客席に戻った私たちには満足感のかけらもなかつた。クラスの一体感など生まれようもない。それでも、ともかく終わった。あとはまたぼんやりとした日々に戻るだろう。

私の望みどおり、ぼんやりはすぐにこの手に戻ってきた。合唱コンクールとその前後の、苛いら立ちも恥はもいざこざも、すべてなかつたことのように①オダやかな日々。そのうちにまた次の行事がやってくるのだ。——マラソン大会だ。合唱コンクールに負けず劣らずマラソン大会も人気がない。その日が近づくにつれ憂鬱ゆううつになる。

正門を出発して住宅地を抜け、大きな橋のたもとに出たら川べりの道に戻ってくる。七キロ弱のコースになる。走り通せるわけがない。しかも、やっと学校に戻ってきててもそこが終点ではない。ゴールを盛り上げるためか、グラウンドをさらに一周することにな

っている。あの一周が特につらい。ほとんどの生徒がゴールしてしまい、あちこちにすわって談笑している前を、ひとりで最後まで走る。体力的にも②セイシンの的にもきつい一周だ。

スタートした時点ですでに足が重かった。ガンバロウ、と肩を叩いてくれた佐々木さんがはるか前方へ飛び出していく。校門を出たあたりで私はもう③最後尾のグループにいた。早くも息が上がっている。脇腹が痛い。どう足掻いてもこのままビリを走ることなるだろう。すぐに私は走るのをあきらめて、脇腹をさすりながら早足で歩く。あつという間に周りに誰もいなくなった。住宅地を抜け、橋のかたわらで折れて川べりを走る。歩く。走る。歩くほうが多い。息が苦しい。

土手の上を歩いていると、遠くから威勢のいい自転車が走ってきて、a立ちすくむ私の真ん前で、急ブレーキをかけた。驚いていると、走れえ、と自転車の先生が怒鳴った。④アワてて走りだす私のすぐ後ろを、走れ、走れ、と自転車で追いかけてくる。もう走れないんだよう、と口の中だけで言っ、半分泣きそうになりながら土手から歩道へ降りて走る。足が痛い。脇腹も痛い。学校まではまだ遠い。息が上がりに、心臓が飛び出しそう。先生はついてくる。どうやらほんとうに私が最後の生徒だったらしい。校門をくぐると、すでに備品の後片づけをしている生徒や先生が目に入る。

「ファイトファイト！ もう一息だ！」

bかろうじてうなずいてみせる。足がもう前に出ない。まだこれからグラウンドを一周しなければならなんてつらすぎる。やっとグラウンドが見えてくる。ジャージの生徒たちが散らばっている。その明るい場所へ、私は一向に近づいていかないような気がする。走っているのか歩いているのか自分でもわからない。足は上がっているのか這っているだけなのか。

汗だくになって走りながら、私の目はトラックの茶色しか見ていない。私の耳は、ガン、ガン、ガン、——と、それからかすかな⑤旋律をとらえる。どこからか、歌が聞こえる、ような気がする。

最初はひとつの声。か細い、頼りない旋律だったのが、次第に声が集まって大きく力強くなっていく。2幻聴、ではない。激しい息づかいと心臓の鼓動と耳鳴りと、それらを超えて歌が聞こえる。顔を上げて、あたりを見る。足がふらつき、視界が⑥ユれる。その隅に、ジャージの一団がかたまっているのが見える。二人、三人、とクラスメートが集まってきて私の方を見ている。

はっとした。まさか、と思う。これはもしかして、あの歌、だろうか。あの、私たちが合唱コンクールで歌った歌。最後までうまく歌えなくて、それどころかクラスが全然まとまらず、私の中に残っていたわずかな自信までなくしてしまった……。

あのときの歌とは、まるで別の歌に聞こえる。こんなに素朴で、いきいきと生きるよろこびを歌った歌だったとは。若草が薫り、雲雀が舞う空の下で、若い⑦田舎娘たちが裸足で戯れながら歌を歌っている。トラックを走りながら、目の前にその光景が浮かぶようだ。

3 私はまったく考え違いをしていた。歌わせよう、歌わせようとした。歌う動機も気持ちも置き去りにして、うまく歌わせることだけに重点を置いた。薄暗い教室で、譜面から目を離さず、注意ばかり飛ばしていた。——こんな歌だったとは……。これは、まぎれもなく彼女たちの歌、そして私たちの歌だ。

4 足が震え、胸が高鳴っている。マラソンのせいばかりではない。曇る目に、原さんが映っている。中溝さんもいる。歌のはじめりに私たちは立ち会っている。ここにいるみんなが、何もなかったこの場所に歌のはじまるところを確かに見た。

もともと、歌のはじまりはこういうものだったのかもしれない。励ましや祈りなど誰かに届けたい思いが自然とあふれ出る。そのような自然な感情の高まりこそが歌だったんじゃないか。

足を引きずり、涙を拭いながら私は走っている。歌声が大きくなる。あと少しで、ゴールだ。

(宮下 奈都『よろこびの歌』より)

問一 線部ア～オの中で一つだけ品詞の異なるものを記号で答え、その品詞名も書きなさい。

問二 線部1「ホームルームで議題が合唱コンクールのことになったときも、私は窓から外を眺めていた」とありますが、

この時の「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 文化祭や体育祭とは違って、人気のある合唱コンクールは、クラスのみんなが熱心に取り組みそうなのでうつつという気持ちを感じる気持ち

イ 頑張って取り組んだ文化祭が終わったばかりなので、疲れ果て、これ以上みんなで協力しなければならぬ行事のことなど考えられないと思う気持ち

ウ にぎやかな行事は苦手なので、秋の行事が一段落した今、次の行事である合唱コンクールの話し合いにはできるだけ参加したくないと思う気持ち

エ 音楽は自分の得意分野なので、知らん顔をしていても、きっとクラスのみんなが自分を指揮者に指名してくれるだろうと期待する気持ち

オ 音楽の得意な人が中心になってクラスをまとめ、合唱コンクールに取り組めばよいというクラスメートの無責任な態度にいらだつ気持ち

問三 に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 意識的 イ 情熱的 ウ 楽観的 エ 批判的 オ 好意的

問四 線部 a 「立ちすくむ」、b 「かろうじて」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ア | 立ちすくむ | ア | 立ちすくむ |
| イ | 立ちすくむ | イ | 立ちすくむ |
| ウ | 立ちすくむ | ウ | 立ちすくむ |
| エ | 立ちすくむ | エ | 立ちすくむ |
| オ | 立ちすくむ | オ | 立ちすくむ |
- ア 立っていられず座り込む ア 苦しみながら
イ 立ったまま動けなくなる イ ほんの少し
ウ いつまでも立ち続ける ウ 大げさに
エ 立ち止まって大声を出す エ やつとのもので
オ 立って行く手をさえぎる オ 驚いて

問五 線部 2 「幻聴、ではない」とありますが、この読点の働きを説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア クラスメートの歌声が聞こえているかどうかは、まだ解らないということを表現する働き
イ 初めは幻聴かと感じたが、やはり歌の旋律が聞こえてきているとすることを確認する働き
ウ 疲れ切った主人公の耳に、聞こえるはずのない幻の声が聞こえてきたことを暗示する働き

エ 体力の限界から、クラスメートの声援がほしいと切に願う主人公の気持ちを代弁する働き
オ 幻聴が聞こえてくるという状況に困惑し、やや取り乱している主人公の心を象徴する働き

問六 線部3「私はまったく考え違いをしていた」とありますが、これは「私」の考えがどのように変化したということですか。八十字以内で説明しなさい。

問七 線部4「足が震え、胸が高鳴っている」とありますが、ここでの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア この歌は、合唱コンクールでちゃんと練習しなかったことのおわびとして皆が歌ってくれていると気づき、驚く気持ち
- イ この歌は、音大の附属高校に合格できなかった「私」を温かくなぐさめるために皆が歌ってくれていると感謝する気持ち
- ウ この歌は、一番足の遅かった「私」を励まし、応援するために皆が歌ってくれている本物の歌だと感動する気持ち
- エ この歌は、クラスのみんなが「私」に本物の歌というものを分からせるために歌っているのだと感謝する気持ち
- オ この歌は、若草が薫り、雲雀が舞う空の下で、若い田舎娘たちが裸足で戯れながら歌う明るい歌だと感動する気持ち

問八 本文中には「清潔なシャツ」、「汚れたシャツ」という表現が出てきますが、次のI～Vは、そのときの「私」から見たとき、それぞれどちらのシャツのイメージとしてとらえられていますか。「清潔なシャツ」ならA、「汚れたシャツ」ならB、

どちらとも言えない場合はCと答えなさい。

- I 合唱コンクールの練習初日の「私」
- II 合唱コンクールの練習をしているときのクラスメートたち
- III 走るのが遅い「私」を川べりの道まで迎えに来てくれた先生
- IV グラウンドの片隅でのびのびと歌うクラスメートたち
- V マラソン大会で足を引きずり、涙を拭いながら走っている「私」

問九 この文章の特徴として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 短い文を重ねた臨場感あふれる表現で、主人公の心の変化を鮮明に描いている。
- イ 比喩や倒置法を巧みに用いて、全体的に幻想的な雰囲気をもたしている。
- ウ 主人公とクラスメートとの心の交流を、それぞれの視点を通して描いている。
- エ 会話中心の分かりやすい文体で、活気のあるクラスの様子を描き出している。
- オ さわやかな秋の描写を取り入れることで、緊迫した場面に安らぎを与えている。

問十 線部①～⑦のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

南都に齒取る※唐人有りき。ある※在家人の、a いみじう※慳貪にして、利を先とし、事にふれて、商ひ心のみありて、宝も持ちたりけるが、1 虫の食ひたる齒取らむとて、2 唐人が所へ行きぬ。齒一つ取るには、錢二文に定めたるを、「一文にて取りb 給へ」と言ふ。※少分のことなれば、ただにも取るべけれども、かく言ふ心様の憎さに、「一文にては取らじ」と言ふ。3 やや久しく論ずるほどに、さらに取らざりければ、「さらば三文にて、齒二つ取り給へ」とて、虫も食はぬ良き齒を取り添へて、二つ取らせて、三文取らせつ。4 心には利分とこそ思へども、大きな損なり。これは申すに及ばず、5 をこがましきわざなり。

(『沙石集』より)

注 ※ 唐人：唐から渡来した人

※ 在家人：普通の生活をしながら、仏教を深く信仰している人

※ 慳貪に：けちで欲張りなこと

※ 少分：わずかな金額

問一 線部 a 「いみじう」、b 「給へ」をそれぞれ現代仮名遣いに改めて、すべてひらがなで答えなさい。

問二 線部 1 「虫の食ひたる齒取らむ」、2 「唐人が所へ行きぬ」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問三 線部 3 「やや久しく論ずる」とありますが、どのようなことについて言い争っているのですか。考えて書きなさい。

問四 線部 4 「心には利分とこそ思へども、大きな損なり」について、次の問いに答えなさい。

- ① ということが「利分」なのか、説明しなさい。
- ② ということが「大きな損」なのか、説明しなさい。

問五 線部5「をこがましきわざ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 恐ろしい話
- イ ばかげた行い
- ウ 腹立たしい結果
- エ かわいそうな出来事

問六 この文章の末尾としてふさわしい文を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ただ眼前の幻の利にのみふけりて、実の利を得ざることこそ多けれ。
- イ 孝行の志まことにありけるを、かかる仏の御哀れみもありとなむ覚ゆる。
- ウ 人を憎むことあらば、やがて我が身の災ひとなる、これ因果の道理なり。
- エ ゆゑなく人を恨み、仏を疑ひて、これを責め、なじることあるべからず。

受験番号入力欄

□

問一 a b

問二 I II III

問三 段落と 段落の間

問四

問五

問六

問七

問八

問九 I 段落 II 段落

問十

□

問一 記号 品詞名

問二

問三

問四 a b

問五

問六

問七

問八 I II III IV V

問九

問十 ① やかな ② ③ ④ てて
⑤ ⑥ れる ⑦

□

問一 a b

問二 1 2

問三

問四 ①
②

問五

問六

[]

問一

a エ b ア

問二

I エ II イ III ウ

問三

6 段落と 7 段落の間

問四

販路の大幅な拡張

問五

か え っ て 栄

問六

総合的な推理と判断

問七

エ

問八

自然科学は、	人間的な要素を排除し、	自然のみを対象と
するのに対し、	人文・社会科学は自ら	の対象から自然を
除外し、	人間現象だけを研究して	いる。

問九

I 9 段落 II 11 段落

問十

イ

問一

記号ア 品詞名 接続詞

問二

ウ

問三

オ

問四

a イ b エ

問五

イ

問六

これまで歌う動機も	気持ち持ちも置き	去りにして、うまく歌
わせることだけ	に重点を置いて	いたが、励ましや祈りな
ど誰かに届けたい	思いが歌には大切だ	と気付いたという
こと。		

問七

ウ

問八

I A II B III C IV A V B

問九

ア

問十

① 穏やかな	② 精神	③ さいこうび	④ 慌てて
⑤ せんりつ	⑥ 揺れる	⑦ いなか	

問一

a いみじゅう b たまえ

問二

1 虫が食った歯を取ろう 2 唐人の所へ行った

問三

歯一本を銭一文で取るか、取らないかということ

問四

① 一本二文で抜く歯を、三文で二本抜くということ
② 虫歯でもない健康な歯まで抜いてしまったこと

問五

イ

問六

ア